

Mission

私たちの理念

- 北海道の重症小児疾患の救急・集中治療を担う
- 分野を問わず対応できる General Pediatrician を育成する
- 各人が尊敬し合い、助け合う医療チームを形成する

北海道の小児救急の担い手として、卒後教育の拠点として私たちはこれまでも、これからも進化を続けます。

“あたりまえ”ができることの大切さ

専攻医は3年間の研修で小児科専門医取得に必要な知識・技能・学術活動を網羅します。当プログラムでは手稲溪仁会病院での一般小児・小児救急の研修をコアとして、専攻医の志向に合わせて研修先や研修内容を柔軟にカスタマイズできます。小児科10領域のうち、外科疾患や希少疾患などは連携施設で補完します。

一般外来から集中治療まで小児の急性期診療を極める



基幹施設：手稲溪仁会病院

研修連携施設：北海道大学病院、北海道立子ども総合医療療育センター、市立札幌病院、札幌北榆病院、生涯医療クリニック（在宅医療）、函館中央病院、北九州市立八幡病院、神戸市立医療センター中央病院、松戸市立総合医療センター、テキサス大学

Feature

研修プログラムの3つの特徴

1. 唯一の市中病院

当院は道内の市中病院としては唯一小児科専門研修 基幹施設の認定を受けています。地域医療を支える急性期病院で豊富な症例と指導陣のもと、専攻医が中心的に治療にあたることで対応力のある general pediatrician を目指します。また専攻医が初期研修医や他の小児科医へレクチャーする機会を重視しており、知識の整理と教える力を身につけます。



2. こどもの救命医療

私たちは重症の小児救急患者にも対応するため最新の設備と小児救急・集中治療チームを備える全国的にもめずらしい小児科です。救命救急センターと連携して道内各地から搬送されてくる重症なこどもの救命医療を学びながら、こどもの命をつなぐ小児科医の醍醐味を体感できます。



3. 北海道から世界へ

最新の知見を医療の提供と情報発信を目的に、国内外での学会発表や論文などの学術活動にも力を入れています。海外の医師と交流する機会や英文指導、英語でのプレゼンテーション教育なども充実しており、研修終了後に海外で活躍する卒業生もいます。



Team 部門紹介

小児科の各診療チームの他、チャイルドライフスペシャリスト、ドクターヘリを有する救命救急センター、在宅医療サポートなど様々な専門家たちや多職種と一緒にチーム医療に取り組んでいます。

一般小児科

直接来院の一般外来はもちろん、小児救急医療支援病院（二次輪番参加施設）として他院からの紹介も多数対応しています。また、アレルギー疾患や内分泌・代謝疾患などの専門診療も行なっています。病棟には専属の看護師、薬剤師、保育士、医療秘書が勤務しており多職種での支援を行なっています。

小児集中治療科/小児搬送チーム（こども救命センター）

小児の三次救急施設として、北海道中から広く重症患者を受け入れています。2014年より小児集中治療科を道内で初めて新設し、搬送チームや北海道小児救急・集中治療ネットワークの構築などを経て、2021年にこども救命センターを開設しました。広大な北海道のどこにおいても重篤な小児を救命するため、質の高い救急医療と集中治療を提供し、北海道における小児救急・集中治療の中心的な役割を果たしていきたいと考えています。

小児循環器科

先天性心疾患や心筋疾患、川崎病などを対象として、小児科、心臓血管外科、麻酔科、コメディカルを含めた多職種での集学的治療を実践しています。道内各地からの患者紹介の他、胎児エコーによる出生前診断も積極的に行なっています。

新生児/NICU（母子はぐくみセンター）

地域周産期センターとして年間 500-600 件の分娩を扱っており、NICU/GCU に入室する新生児も年間 300 例程います。出生から退院後の乳児検診まで、こどもの健やかな成長をサポートします。

チャイルドライフスペシャリスト(CLS)

日本でまだ少ない CLS が在籍しており、重篤なこどもや処置・検査を受けるこどもの多面的なサポートをおこなっています。

在宅医療

道内最大級の在宅医療専門施設（生涯医療クリニックさっぽろ）と診療連携しており、小児の在宅呼吸器など医療的ケア児について研修することが可能です。

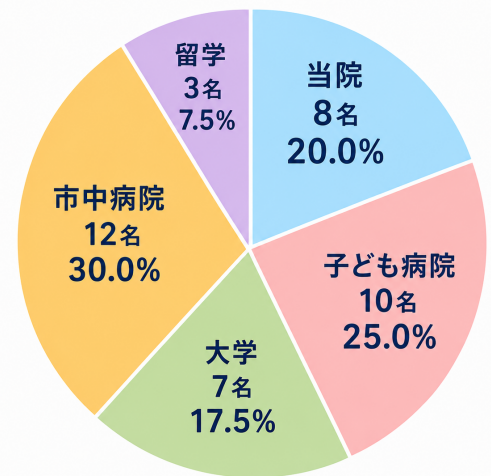


全国から集まる専攻医たち。研修終了後はより専門性の高いサブスペシャリティ研修に入るものや、一般小児診療を続けるもの、海外留学へ進むものなど様々です。

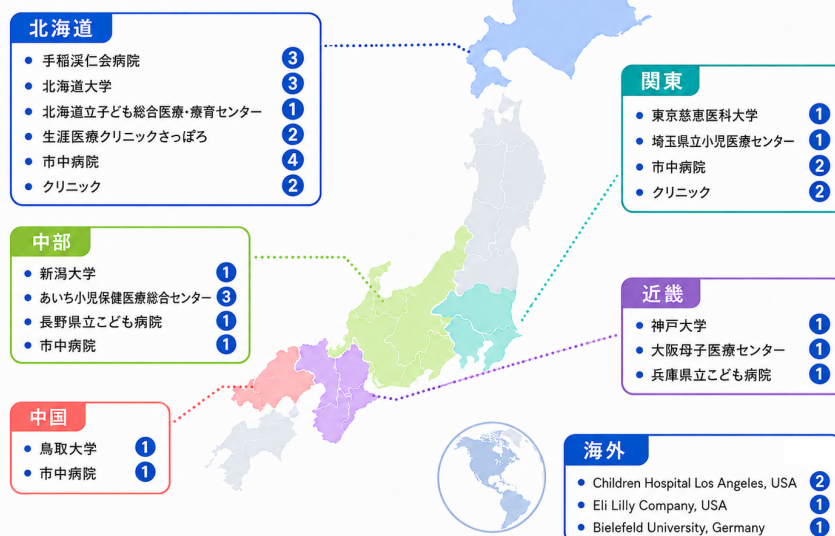
出身大学



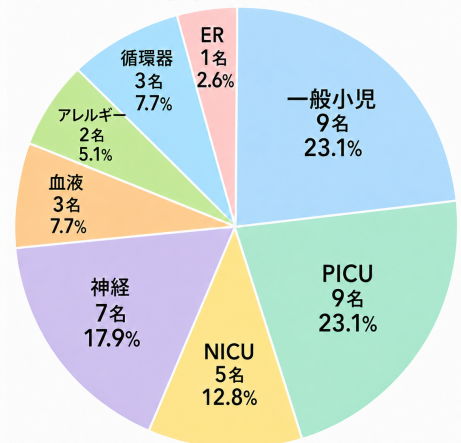
6年目の進路



現在の勤務地 (2026年現在)

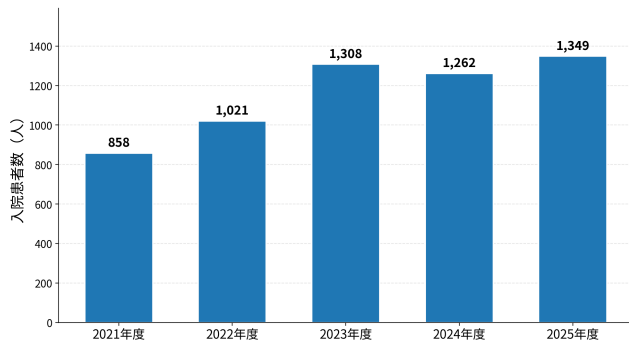


専門分野





小児病棟入院患者数の推移



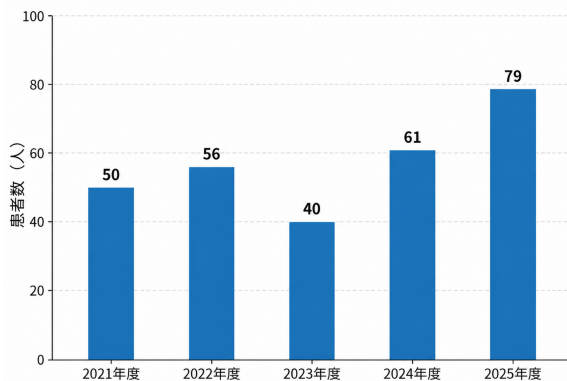
小児病棟入院患者数 疾患別 (2025 年)

呼吸器感染症	354	川崎病	83
RSV	68	けいれん、てんかん	104
インフルエンザ	75	けいれん重積	12
マイコプラズマ	30	外傷、事故	56
消化器感染症	84	アナフィラキシー	19
尿路感染症	21	腸重積	11
早期乳児の発熱	17	食物負荷試験	71
気管支喘息発作	94	ホルモン負荷試験	9

外来患者数の推移

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
小児科外来	6,189	6,759	7,324	7,462	7,742
小児循環器外来	1,884	1,940	1,944	1,960	1,877
小児救急外来 (外科系含む)	1,813	2,304	2,437	1,992	2,076
外来数合計	9,886	11,003	11,705	11,414	11,695

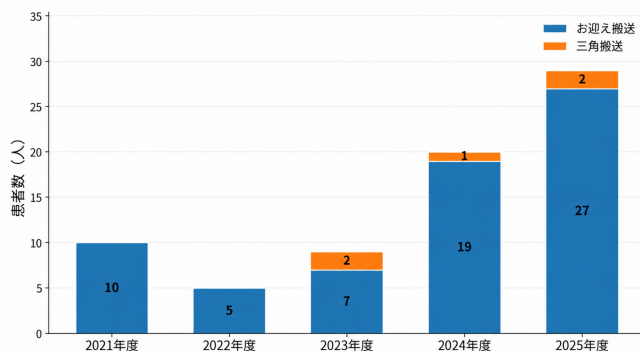
小児ICU入室患者数の推移



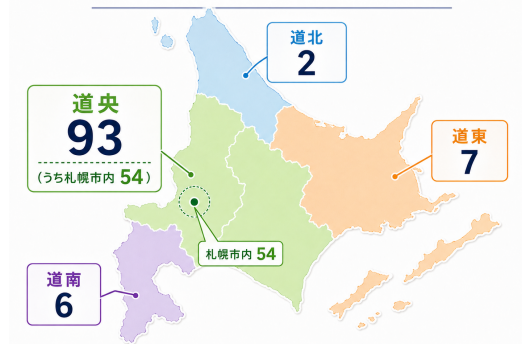
小児集中治療実績

人工呼吸器(IMV)	年間30-40件
非侵襲的人工呼吸器(NIV)	年間10-20件
ネーザルハイフロー療法	年間5-20件
一酸化窒素(NO)療法	年間1-4件
血漿交換(PE)	年間1-10件
急性血液浄化(CRRT)	年間1-4件
体外式膜型人工肺(ECMO)	年間0-2件

搬送チームでの患者搬送数の推移



搬送元地域 (2018-2025年)





施設概要

名称：手稲溪仁会病院

病床数：660 床

特定集中治療室(ICU) 16 床・救命救急病床 30 床・脳卒中ケアユニット（SCU）15 床・NICU6 床・GCU・床開放型病床 5 床

診療科：36 科 医師数：266 名

地域医療支援病院、救命救急センター、道央ドクターヘリ基地病院、災害拠点病院、研修指定病院、小児科専門医研修基幹施設、小児救急医療支援病院、小児集中治療連絡協議会関連施設、地域周産期母子医療センター

小児科概要

小児病棟 15 床、NICU 6 床、GCU 6 床、ICU（小児用ベッド）4 床

所属医師数：16 名（うち後期研修医 5 名）

認定資格：小児科専門医 11 名、小児循環器専門医 2 名、集中治療専門医 4 名、アレルギー専門医 2 名、

内分泌代謝科専門医、麻酔科標榜医、麻酔科専門医、救急専門医、呼吸療法専門医

PALS インストラクター 3 名、JPLS インストラクター

コメディカル：チャイルドライフスペシャリスト、薬剤師、医療クラーク、医療秘書、保育士





連絡先：

手稲溪仁会病院 臨床研修委員会事務局

〒006-8555 札幌市手稲区前田一条 12-1 -40

電話：011-685-8111（代表）

医学生の方： kenshu@keijinkai.or.jp

専攻医希望の方： tkh-senmoni@keijinkai.or.jp

小児科 HP



小児科 Face book



小児科 Instagram

